

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:〇〇〇〇年〇月〇日

事業ID:2023011247

事業名:沖縄県沖縄市における「子ども第

団体名:特定非営利活動法人エンカレッジ

代表者名:坂 晴紀 印

TEL:098-923-1813

事業完了日:2024年3月31日

■契約時

事業費総額	:	7,200,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	7,200,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	7,484,755 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	284,755 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	7,200,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 沖縄県沖縄市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営 (1)期間: 通年(週3日以上、14時から20時まで開所) (2)場所: 沖縄県沖縄市照屋1-15-2 (3)対象: 20名(家庭や自身に課題を抱えた小中高生を中心) (4)内容: 「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。自団体の得意とする寄り添いによる意識向上と様々な体験活動を通し、子どもたちが社会との繋がりの中から、広い選択肢を見つけられる様に促す。
--

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 沖縄県沖縄市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営 (1)期間: 通年(週3日以上、14時から20時まで開所) (2)場所: 沖縄県沖縄市照屋1-15-2 (3)対象: 82名(家庭や自身に課題を抱えた小中高生を中心) (4)内容: 「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。自団体の得意とする寄り添いによる意識向上と様々な体験活動を通し、子どもたちが社会との繋がりの中から、広い選択肢を見つけられる様に促す。
--

(3)成功したこととその要因

子ども達の課題に対応する対処的な支援以外にも、子どもたちがより良い未来へと進む為の、将来への投資となる活動も行った。多様なキャリア体験プログラムを行えたのは、企業や地域の人々の協力を得られた事が大きい。

(4)失敗したこととその要因

年間を通して実施予定だったプログラムが予算や人材確保の面で継続が困難になるなど、参加者が多くなったり規模が大きくなる事での継続の難しさを感じた。

(5)事業内容詳細

上記「(2)事業完了時の事業内容(実績)」の詳細について、ご記載ください。別途報告書を作成されている場合は、それを添付いただければ省略可能です。

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- 1)2024年3月31日までに1日平均利用者数を15名にする。
- 2)ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供。
- 3)ライフキャリア教育「たてよこ+」イベントをオンライン、オフライン合わせて毎回100名以上に提供する。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	229	文字数チェック	OK
<p>1)本目標は達成し、現在の一日平均利用者数は、20名になっている。</p> <p>2)学校・行政が行っている子ども一人ひとりの情報共有や、対策検討会に参加する事が出来た(学校・家庭以外で過ごす居場所での状況確認の為)当施設が商店街の中にある為、子どもたちに街のみんなが声掛けをしてくれる様になり、商店街の一つの風景として馴染んでいる。</p> <p>3)リアルでの参加者は平均で20名ほど参加していたが、オンラインでの参加には結びつける事が出来なかった。次年度は高方面に力を入れていく。</p>			

3.事業実施によって得られた成果

学校・行政から子どもたちの利用状況や生活状況などについて、情報提供を求められた事は子どもたちが過ごす居場所として機能出来ている事が認知されてきた為だと考えられる。
浪人生の高校受験に関して、地域の子育て支援センターと学習面・生活面で役割分担を行ったり、子どもたちに対して多方面から支援する為の協力体制を作る事が出来た。
HYさんとの音楽イベントへの参加は、子どもたちが自分の新たな一面を見出したり、挑戦を諦めかけていた夢を体験出来たりと、子どもたちの将来への選択肢を増やす事が出来た。また、楽曲や映像により自分たちの成果が残った事で、子どもたちが良い成功体験を得る事が出来た。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

子どもたち各自を尊重しかつ沢山の子どもたちを受けいる為には、可能な限り個別に対応できる状況を作る必要があるが、人員の確保が難しかった。
子どもたちの利用に制限を掛けずに対応する為の、人員確保やスキルアップに努めていきたい。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

報告書

(2)事業完了時の成果物名称

報告書



(3)未作成となった要因

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://fields.canpan.info/report/detail/31150>

2023年度 収支計算書

2023年 4月 1日から 2024年 3月 31日まで

(単位:%)

団体名: 特定非営利活動法人 エンカレッジ

契約書(記3)に記載の補助率

100

事業名: 沖縄県沖縄市における「子ども第三の居場所」(B)コ

(収入の部)

(単位:円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B) 自動計算	受入済額 (C)	未収額	助成金返還見込額
				自動計算(A-C)	自動計算(A-B)
① 日本財団助成金収入	7,200,000	7,200,000	7,200,000	0	0
② 自己負担		284,755	284,755		
③ 収入合計	7,200,000	7,484,755	7,484,755	0	0

(支出の部)

(単位:円)

費目	日本財団承認済の 予算額 (x)	決算額 (y)	支出済額 (z)	未払額	補足説明、備考
				自動計算(y-z)	
諸謝金	3,240,000	3,881,478	3,298,938	582,540	未払額は3月分給与
通信運搬費	780,000	731,011	690,365	40,646	未払学は3月請求分
食糧費	960,000	472,655	472,655		
消耗品費	360,000	371,791	371,791		
印刷製本代	60,000	95,491	95,491		
雑役務費	600,000	1,344,746	1,344,746		
諸手当	360,000	96,000	96,000		
光熱水費	840,000	491,583	491,583		
支出合計(端数調整前)	7,200,000				
端数調整欄	-				
④ 支出合計(端数調整後)	7,200,000	7,484,755	6,861,569	623,186	

※助成金・負担金額の確定は監査終了後、当財団よりご連絡いたします。

※予算額に対し、決算額が下回った場合、助成金の返還が生じます。

【返還見込額の発生有無】

返還見込額の発生

無し

※「有り」の場合は予算額に対し決算額が下回っているため、返還金が発生する可能性があります。

【一致確認】 ※NGが出た際は、入力間違いの可能性があるので該当項目を再確認してください。

予算額(A)③収入合計=予算額(x)④支出合計	OK
決算額(B)③収入合計=決算額(y)④支出合計	OK
受入済額(C)③収入合計-助成金返還見込額=支出済額(z)+未払額④支出合計	OK

セルフチェック項目 (プルダウンで選択)

 ① (収入の部)の予算額 (A)の①日本財団助成金収入と③収入合計は、契約書に記載されている助成金額及び事業費総額と一致しているか。 ② (収入の部)の予算額(A)③収入合計と(支出の部)の日本財団承認済の予算額(x)④支出合計が一致しているか。 ③【一致確認】欄は全て「OK」であるか。